

Nara National Museum

奈良国立博物館 だより

第 **51** 号

平成16年 10・11・12月



鳥獣花背方鏡（正倉院・南倉）

特別展

第56回 正倉院展

東・西新館

10月30日(土)～11月15日(月)

特別陳列

談山神社の名宝

平成16年12月11日(土)～平成17年1月23日(日)
西新館

法隆寺救世観音像旧厨子

平成16年12月11日(土)～平成17年1月23日(日)
西新館

平常展

仏教美術の名品

本館

中国古代青銅器

本館

特別展

第56回 正倉院展

会期 十月三十日(土)～十一月十五日(月)
会期中無休
会場 奈良国立博物館 東・西新館
主催 奈良国立博物館
協力 朝日新聞社、NHK奈良放送局

奈良の秋を彩る正倉院展は今年で五十六回を数えます。今年の出陳宝物数は七十五件(北倉七件、中倉二十三件、南倉四十二件、聖語蔵三件)で、そのうち十二件が初出陳です。今年の特徴は、聖武天皇と光明皇后の遺愛品をはじめとする調度品、伎楽の面や装束、楽器、貴顕の身を飾った佩飾品、寺院の堂内を華やかに荘厳した仏具類がまとまって出陳されている点にあります。

調度品で注目される品に、聖武天皇の遺愛品である鳥獸背八花鏡、紫地鳳形錦御軾があります。御軾は細長いクシヨンのような形で、全面に華やかな鳳凰文様の錦をはつています。今日の肘つきにあたり、上面の錦には使用による擦れが見られます。聖武天皇の身のまわりに置かれた品であり、天皇の暮らしの一場面を偲ばせる宝物です。また、正倉院宝庫中唯一の椅子の作例である赤漆欄木胡床が出品されるのも見逃せません。椅子に座る習慣のなかった奈良時代において、このような椅子は儀式の際に皇族や貴族、あるいは僧侶といった高貴な人物が用いたものだと思います。当時の儀式的一幕を伝える貴重な作品といえるでしょう。ちなみに、椅子に座るときは今日のように脚を下げるのではなく、座面であぐらをかいたと考えられています。

さて、今回は楽器が七点、伎楽面が三点、楽舞に関する装束が七点出陳されており、奈良時代の寺院楽舞の遺品が多く出陳されています。特に、楽器では正倉院の琵琶の中でもっとも保存状態の良い楓蘇芳染螺鈿槽琵琶が出陳されているのが目を引きます。このほか、楽器では今日では失われた堅琴である築篳、珍しい三彩の楽器である磁鼓が出陳されています。

また、文書は今年も正税帳や戸籍など、当時の社会の様子を伝える貴重な品が出陳されますが、特に話題を呼んでいるのは鑑真奉請経巻状です。この書状は、東大寺の良弁に経

典の借用を申し入れたときの書状です。はたして鑑真その人の字か弟子が代筆したものか明らかではありませんが、鑑真の足跡を伝える貴重な品といえるでしょう。

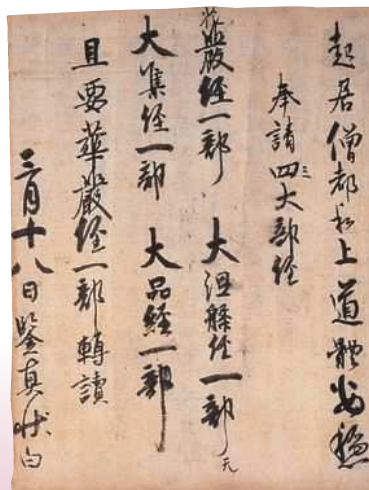
仏具類には、厨子の扉、小建築の部材、仏を供養するための仏具、堂宇を美しく飾るための荘厳具が出陳されます。なかでも、銀線で美しいガラス玉を纏繞彩色風につらねて皿形とした雑玉幡は、散華の花を盛った華籠、もしくは堂内に懸けた華鬘と推定されている品で、奈良時代の華やかな寺院の様子を伝えており注目されます。また、当時仏に捧げものをする時には献物箱と呼ばれる箱、もしくは献物几という小几を用意しました。それらは貴重な材を惜しげもなく使い、美しい荘厳が施されました。今回出陳の緑地彩絵箱は献物箱を代表する品で、緑色を背景に華やかな色彩で花や螺などを描いています。また、紫地錦几褥は献物几の上敷きとして用いられていたもので、鮮やかな配色が印象的な作品です。このような作品は、奈良時代の人々の信心の篤さを今に伝えています。



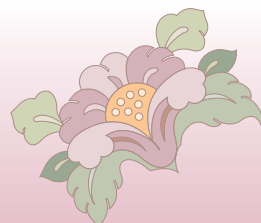
楓蘇芳染螺鈿槽琵琶〔背面〕(南倉)



紫地鳳形錦御軾(北倉)



正倉院塵芥文書第35巻・鑑真奉請経巻状(中倉)





磁鼓（南倉）



赤漆欄木胡床（南倉）

特別陳列

法隆寺救世観音像旧厨子

平成16年12月11日(土)～平成17年1月23日(日)

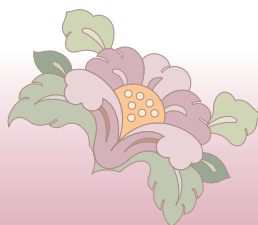


法隆寺夢殿

法隆寺夢殿の秘仏・救世観音像をかつて納めていた厨子の部材が、近年再発見されました。本展では、旧厨子を可能な限り復原し、その全貌を紹介します。



緑地彩絵箱（中倉）



特別陳列

大和の神々と美術

談山神社の名宝

平成16年12月11日(土)～平成17年1月23日(日)



絹本着色多武峯縁起〔部分〕（談山神社）

奈良県桜井市多武峯^{とうりみね}に鎮座する談山神社は、大化の改新の偉業で知られる藤原鎌足を祭神としています。談山神社には、その長い歴史と信仰を反映して、鎌足の彫像や画像、神仏習合時代を偲ばせる仏像・仏画・文書類、祭礼・芸能に関わる工芸品など、数多くの宝物が伝えられて来ました。

本展覧会は、こうした談山神社に伝来した名宝の数々を一堂に公開する初めての試みです。この機会に名社の歴史と美術をご堪能いただければ幸いです。

展 示 評

外からみる奈良博

「黄金の国・新羅——王陵の至宝——」を見て

京都大学大学院助教授 吉井 秀夫



会場入口



観覧風景

奈良国立博物館と大韓民国国立慶州博物館の共同開催による特別展「黄金の国・新羅——王陵の至宝——」開催にあたり、私は縁あって、国立慶州博物館が作成した図版原稿の監訳を担当させていただいた。その準備過程でまず驚かされたのは、今回の遺物出展数とその内容である。韓国の文化財全般を紹介するための特別展は、これまでも何度か日本国内で開催されてきた。しかし、特定のテーマ・時代を対象として国宝を含む「級品」がこれだけまとまって出展されたのは、おそらく初めてではなかろうか。両館は長年にわたって学術交流を重ね、ニューヨーク・慶州でも共同開催展を経験したと聞く。その間に形成された信頼感が、今回の特別展を可能にした原動力の一つであることは、準備を進めている両館の学芸員の姿をみて容易に想像することができた。

最初に展示室を見渡した時、私は一瞬、国立慶州博物館にいたのではないか、という錯覚にとらわれた。しかししばらくして、個々の遺物から受ける印象の違いに気がついた。当然のことだが、国立慶州博物館には、今回の出展品をはるかに越える数のすばらしい新羅古墳出土遺物が展示されている。慶州博を訪問するたび、私は展示品の数と質に圧倒され、あちこち目移りしているうちに見学を終えざるを得なくなってしまう。それにくらべて今回の特別展では、選び抜かれた遺物が一点一点大事に展示されていたため、個々の遺物をじっくりと鑑賞・観察することができた。例えば、ローマングラス・金製高杯・銀製高杯の展示は、下側から照明をあてることで、その美しさがよく引き立てられていた。また、耳飾りは一対ずつよくみえるように展示されていたために、最近韓国で議論されている製作技術についての細部の観察が可能であったのは、研究上非常に助かった。

ただ、全般的には遺物の美しさを引き出すことに成功している照明が、時に遺物の細部を観察しにくくしていたのは残念であった。また図録も、概説・個別解説とも充実しているものの、韓国における研究の現状を知り得るような論考があれば、学術的な意義がさらに高まったのではないか。国立慶州博物館で開催された土偶や装身具をテーマとした特別展の図録に掲載されている論考が参考となる。また、同時開催というかたちで別室で展示されていた日本出土遺物を、具体的に比較検討する試みが行われていれば、日本で新羅の遺物との関係を示す意味がさらに高まったであろう。

いろいろと無理な要望を書き記したが、最初にも述べたように、今回の展示が実現できたこと自体がまさに快挙である。今後も両館の学術交流が続けられ、その中で生まれた研究成果をもとに、さまざまな共同開催特別展が開かれることを期待したい。



天馬塚の木槨の復元模型



絹本着色藤原鎌足像(談山神社)



○木造十一面觀音立像 多武峯伝来
(東京国立博物館)



○絹本着色大威徳明王像
(談山神社)



(一帯生)談山神社

特別展
第五十六回 正倉院展
10/30~11/15 東・西新館

1	鳥獸背八花鏡	北倉	36	木笏	中倉
2	八角櫛箱(八花鏡の箱)	北倉	37	魚骨笏	中倉
3	鳥獸花背方鏡	南倉	38	青石把漆鞘金銀細莊刀子	中倉
4	漆皮箱(万鏡の箱)	南倉	39	沈香把玳瑁鞘金銀莊刀子	中倉
5	紫地鳳形錦御袱	北倉	40	白犀把烏犀鞘刀子	中倉
6	花氈	北倉	41	組帶	中倉
7	赤漆欄木胡床	南倉	42	牙櫛	中倉
8	漆高机	中倉	43	撥鏤飛鳥形	中倉
9	雜物出入帳	北倉	44	4・5手鐸	中倉
10	樺纏尺八	北倉	46	日光形	南倉
11	斑斑竹笙	南倉	49	金銅合子	南倉
12	楓蘇芳染螺鈿槽琵琶	南倉	50	佐波理蓋	南倉
13	紫檀金銀泥絵琵琶撥	南倉	51	佐波理盤	南倉
14	七絃樂器	南倉	52	佐波理承盤	南倉
15	螺鈿槽篋	南倉	54	漆仏龕扉	南倉
16	磁鼓	南倉	55	仏像型	南倉
17	伎楽面(太孤父・師子兒)	南倉	56	紫檀塔	南倉
20	革帶	中倉	57	雉玉幡	南倉
21	柳箱(革帶の箱)	中倉	58	漆彩絵花形皿	南倉
22	鼓撃布衫	南倉	59	漆花形皿	南倉
23	布衫	南倉	60	朽木菱形木画箱	中倉
24	渾脱半臂	南倉	61	緑地彩絵箱	中倉
25	久太衫	南倉	62	蘭箱	南倉
26	久太袴	南倉	63	檜彩絵花鳥櫃	南倉
27	白綾帳	南倉	64	67 鏝子	南倉
28	続修正倉院古文書第六卷	中倉	68	紫地錦几褥	南倉
29	正倉院古文書正集第一九卷	中倉	69	赤紫縹縹繩几褥	南倉
30	正倉院塵芥文書第三五卷	中倉	70	袷布索	中倉
31	続々修正倉院古文書第四四帙第四卷	中倉	71	縹地唐花文錦	南倉
32	東南院古文書第三櫃第四一巻	中倉	72	赤地縹縹布	南倉
33	続修正倉院古文書後集第二三巻	中倉	73	十地経論 卷第八	聖語藏
34	山水図	中倉	74	悲華経 卷第四	聖語藏
35	通天牙笏	北倉	75	阿闍貫王女経	聖語藏

特別陳列

法隆寺救世観音像旧厨子

12/11~1/23 西新館

特別陳列 大和の神々と美術
談山神社の名宝
12/11~1/23 西新館

I. 談山大神・藤原鎌足

多武峯縁起、藤原鎌足及び両脇侍像(彫刻三軀)、藤原鎌足像(絵画八幅)(以上、談山神社)、藤原鎌足像(絵画一幅、多武峯平等院伝来)(当館)、談山権現講私記、多武峯大織冠尊像御破裂目録、御破裂之覚、御破裂平癒祈願九条尚経告文、御破裂平癒参向指図(以上、談山神社)

II. 妙楽寺と天台の美術

○十一面観音立像(東京国立博物館)、○大威徳明王像、○法華経宝塔曼荼羅、如意輪観音坐像、聖徳太子絵伝、大日及び二尊図、三十番神像、楊柳観音像、伝教大師像、増賀上人像、増賀上人行業記、維摩詰経註、大般若経卷第四百七十一、妙法蓮華経、細字妙法蓮華経(二巻)、版本法華経、金界妙法蓮華経(以上、談山神社)

III. 多武峯伝来の名宝

●大和国栗原寺三重塔伏鉢、梵鐘、九龍杵、三十六歌仙図扁額(藤原高光・伊勢)(以上、談山神社)、○天台岳中石橋図(旧慈門院障壁画のうち)、彭城百川筆(個人)、狛犬、○沃懸地太刀、○脇指(銘備州長船義景、○短刀(銘米国俊)、○短刀(銘成繩)、○太刀(銘吉平)、○短刀(銘備中国住忠平(以下切))、○薙刀(銘一)、○本殿平面図(談山神社本殿造営図並所用具図のうち)、○本殿背面図(談山神社本殿造営図並所用具図のうち)、高机詳細図(談山神社本殿造営図並所用具図のうち)、○朱漆机、二帯笙(以上、談山神社)

IV. 談山神社文書の世界

後柏原天皇綸旨、室町幕府奉行人連署奉書、多武峯衆徒勸進事書、後陽成天皇綸旨、嘉吉元年九月十一日祭文案、羽柴秀長家臣横濱一庵書状(二点)、豊臣秀次祈願状、大神移殿日時勘文、織田信長黒印状、羽柴秀長下知状案、豊臣秀吉朱印状、常行三昧堂儀式上・中・下、常行三昧堂大過去帳、修正導師作法、常行三昧堂念仏私記、箸喰庄差図、膳夫庄差図、忌部庄差図、大和国百濟一莊之内屋敷田畠差図、多武峯絵図(以上、談山神社)、多武峯絵図(個人)

V. 祭礼と芸能

能面(若女・悪尉・摩多羅神面)、蓮華会延年式目、蓮華会延年執事僧名・演目録、大風流(第一・二十四)、小風流(第一・十五)、連事(第一・十三)、開口(第一・七)、連事本(第一・九)、多武峯年中行事、多武峯社法楽賦山何連歌(以上、談山神社)

※会期中に二部展示を換えを行います。

平常展

仏教美術の名品

10月~12月 本館

【彫刻】

《奈良時代の仏像》 第1室

○脱活乾漆：木造梵天立像、○脱活乾漆：木造伝教脱菩薩立像(以上、秋篠寺)、○銅造法華説相図(長谷寺)、○木造菩薩立像*12/7から*(金竜寺)、○木心乾漆文殊菩薩坐像*12/7から*(葉師寺)、木心乾漆菩薩坐像*12/7から*(観音寺)、○銅造葉師如来坐像、銅造誕生釈迦仏立像、銅造誕生釈迦仏立像(以上、当館)、○銅造誕生釈迦仏立像(眞寺)、○銅造誕生釈迦仏立像(正眼寺)、



木造蔵王権現立像（当館）



○木造不動明王坐像（園城寺）



●八幡三神坐像のうち神功皇后（薬師寺）

銅造誕生釈迦仏立像（個人）、●脱活乾漆十大弟子立像のうち舍利弗・目犍連像、●脱活乾漆八部衆立像のうち緊那羅像（以上、興福寺）、○二月堂本尊光背*12/5まで*、○木造西大門勅額（以上、東大寺）、●木心乾漆光背（聖林寺）、●木心乾漆伝義淵僧正坐像（岡寺）、●木心乾漆阿闍如来坐像（西大寺）

＜平安・鎌倉時代の仏像＞ 第2室

○木造阿彌陀如来立像、○木造重源上人坐像（以上、浄土寺）、○木造司命倚像（金剛山寺）、木造閻魔王坐像（東大寺）、●木造薬師如来立像（元興寺）、○木造聖観音立像（観心寺）、○木造十一面観音立像（勝林寺）、○木造十一面観音立像（地福寺）

＜ガンダーラ・中国・朝鮮半島の彫刻＞ 第4・6室

ガンダーラ

石造菩薩立像、石造仏伝図浮彫（以上、当館）、ストウツコ如来頭部、ストウツコ如来坐像、ストウツコ菩薩立像、ストウツコトラス像、石造貴婦人群像（以上、個人）

中国

銅造仏三尊飾板、銅造菩薩坐像、銅造力士立像、○木造諸尊仏龕（以上、個人）、銅造二仏並坐像、方形独尊坐像、方形阿彌陀三尊、方形独尊、小型独尊、石造如来頭部（雲岡）、石造如来頭部（天竜山）、石造仏五尊、石造仏立像、石造浄土碑像、○石造三尊仏龕（以上、個人）、○石造三尊仏龕、○石造十一面観音立像（以上、当館）

朝鮮半島

銅造如来立像（光明寺）、銅造如来立像（当館）

＜檀像＞ 第7室

○木造観音菩薩立像（本山寺）、○木造

弥勒仏坐像（東大寺）、○木造維摩居士坐像（石山寺）、○木造十一面観音立像*12/5まで*（当館）、○木造十一面観音立像*12/7から*（海住山寺）

＜塑像＞ *12/5まで* 第8室

○塑像断片（薬師寺西塔出土）、塑造人物頭部（本薬師寺出土）（以上、薬師寺）、塑像断片（川原寺裏山遺跡出土）（明日香村）、塑像断片（雪野寺出土）（個人）、塑造菩薩頭部（定林寺出土）、塑像断片（斉尾廃寺出土）（以上、当館）

＜伎楽面＞ *12月7日から* 第8室

○治道・崑崙・力士・太孤父・醉胡王・醉胡徒（以上、東大寺）

＜小金銅仏＞ 第8室

○銅造観音菩薩立像（観心寺）、○銅造観音菩薩立像（法隆寺）、○銅造菩薩半跏像（東大寺）、○銅造観音菩薩立像（金剛寺）、銅造菩薩立像、銅造十一面観音立像（仏像型）、銅造観音菩薩立像（以上、当館）

＜平安時代後期の仏像＞ 第9室

○木造不動明王坐像（園城寺）、木造大日如来坐像（西城戸町）、木造釈迦如来坐像（法隆寺）、木造菩薩半跏像、木造不動明王立像（以上、個人）、○木造増長天立像（称名寺）、○木造増長天立像（法明寺）、木造伝前鬼・後鬼坐像（西南院）、木造阿彌陀如来坐像、木造広目天立像、木造毘沙門天立像（以上、当館）

＜鎌倉時代の仏像＞ 第10室

木造弥勒菩薩立像（林小路町）、○木造地藏菩薩立像（東大寺）、○木造地藏菩薩立像（長命寺）、○木造大黒天立像（興福寺）

＜神仏習合の彫像＞ 第11室

●木造八幡三神坐像（薬師寺）、○銅造蔵王権現立像（二軀）（大峯山寺）、木造蔵王権現立像、木造伊豆山権現立像、

木造童子形坐像、銅造金剛童子立像（以上、当館）、木造男神坐像（観音寺）

＜獅子・狛犬＞ 第12室

○木造狛犬（吽形）、○木造獅子、木造獅子（以上、当館）、○木造獅子頭部（東大寺）

＜神将形の彫像＞ 第13室

○木造十二神将立像（六軀）（東大寺）、木造十二神将立像（十二軀）（当館）

特集展示

法隆寺伝法堂・乾漆造の諸尊像

本館 第3室

○脱活乾漆阿彌陀三尊像（中の間）、○脱活乾漆阿彌陀三尊像（西の間）、○木心乾漆阿彌陀三尊像（東の間）（以上、法隆寺）

特別出陳

国宝 薬師如来立像（唐招提寺金堂）

本館 第1室

平常展

中国古代青銅器（坂本コレクション）

本館 第14室・第15室

パネル展示

修復文化財

開催中 地下回廊

●国宝 ○重要文化財

以上すべての展示において、出陳作品を一部変更する場合があります。

緊急企画

台風被災復興支援

「厳島神社国宝展」(仮称)

平成17年1月2日(日) 2月13日(日)

日本三景の一つ、安芸の宮島に鎮座する厳島神社（広島県宮島町）は、海上に建つ壮麗な社殿や数々の社宝で名高い世界遺産です。本年九月、同社は広島地方を襲った台風十八号により、国宝の左楽房が倒壊するなど甚大な被害を受けました。復旧には膨大な労力と経費が必要のため、これを支援する企画として本展の開催が決定しました。平安時代の装飾経の最高傑作、平家納経（国宝）をはじめ、多数の国宝・重要文化財を含む、よりすぐった社宝が一堂に展観されます。この機会にぜひご来場の上、復興へのご協力を賜りますよう、ご案内いたします。



●平家納経〔法華経 厳王品 第27〕（厳島神社）

奈良博 NEWS

海外展

扶桑之旅展的報告

5月25日より6月30日にかけて、中国・北京市の天安門広場に面する中国国家博物館において「扶桑之旅—日本文物精品展—」が開催されました。この博物館は中国通史を展示する施設であり、中国を代表する充実したコレクションを有することで知られています。今回の展示では、日本美術が大陸の文化を受けつつ独自の文化を形成する様子を縄文時代から江戸時代にいたる99点で分かりやすく展示しました。首都北京において、国宝・重要文化財を含む日本美術の名品が総合的に展示されるのは初めてであり、連日数多くの観覧者でにぎわいました。

この展覧会は本来昨年春に開催される予定で、作品も一旦は北京入りました。ところが、開催直前になり北京市にSARS患者が急増したため展覧会は延期となり、作品を急遽日本に持ち帰ることになりました。海外での展示にハプニングはつきものですが、開催直前での中止という前代未聞の事態に担当者たちはやるせないのを感じました。

今年の初春、SARSの流行のうわさがち



モダンなデザインの会場入口

らほら中国から聞こえてきましたが、北京に着いてみればそれも杞憂に終わり、展示作業も滞りなく進みました。心配していた会場の乾燥も、中国側の用意した10台の加湿器と特製密閉ケースが功を奏し、日本の博物館と変わらない環境で作品を展示することができました。昨年のハプニングがかえって日中双方の連携を強め、無事に開幕にこぎつけることができましたと思います。サッカーアジアカップで日中友好の道のりの遠さを実感したばかりですが、文化の日中交流は順調に進展しています。

(工芸考古室長 内藤 榮)

●公開講座●

- 10月30日(土) 「正倉院文化の源流」 長澤和俊氏(早稲田大学名誉教授)
- 11月3日(水・祝) 「正倉院の楽器」 内藤 榮(当館工芸考古室長)
- 11月6日(土) 「装束から見た伎楽」
田中陽子氏(宮内庁正倉院事務所保存課整理室員)
- 11月13日(土) 「正倉院の戸籍からよみとる奈良時代の社会」
野尻忠(当館研究員)
- 12月18日(土) 「大織冠像の変身」(仮題)
黒田智氏(早稲田大学非常勤講師)

※時間：13:30～ 会場：当館講堂 定員：200名
聴講無料(13:00より講堂入口で整理券を配布します)

●親と子の文化財教室「鎌倉時代の歴史と美術」受講者募集●

- 第6回 10月9日(土) 現地見学 三十三間堂と六波羅蜜寺(集合場所：三十三間堂入口)
- 第7回 11月13日(土) 現地見学 西大寺(日本一の五輪塔)(集合場所：西大寺本堂前)
- 第8回 12月11日(土) 似顔絵の誕生

※小学5・6年生、中学生と保護者を対象とした教室です。
※ハガキまたはFAXで、「親と子の文化財教室参加希望」と明記の上、住所・氏名・学校名・学年・電話番号・同伴する保護者の氏名・参加希望の回(何回でも可)を記入して、当館教育室までお申し込みください。
〒630-8213 奈良市登大路町50 奈良国立博物館教育室
FAX：0742-22-7221
※参加費は無料ですが、現地見学では拝観料金等が必要です。
※時間：10:00～12:00 場所：奈良国立博物館 講堂(現地見学以外)
定員：各回100名(先着順)

●ギャラリー・トーク●

- 10月13日(水) 「伝法堂乾漆諸尊」 岩田茂樹(当館美術室長)
- 11月10日(水) 「埴仏」 吉澤悟(当館研究員)
- 12月8日(水) 「平安初期の彫刻—唐招提寺薬師から元興寺薬師へ—」
鈴木喜博(当館上席研究員)

※時間：14:00～ 本館展示会場にて 入館者は聴講自由

お知らせ

台風被災復興支援「厳島神社国宝展」(仮称)の開催に伴い、西新館における展示予定が変更となりました。日程をご確認の上、ご来館下さるようお願いいたします。

特別陳列「法隆寺救世観音旧厨子」 会期変更
(開催期間：平成16年12月11日～平成17年1月23日)

特別陳列「古密教」 延期(会期未定)

平常展：西新館(絵画・書跡・工芸・考古) 休止
(平成16年10月12日～平成17年1月31日)

なお、特別陳列「談山神社の名宝」および平常展：本館(彫刻・中国古代青銅器)は、予定通りの日程で開催いたします。

●展覧会日程●

	10 月	11 月	12 月	平成17年1月
本 館	平常展(彫刻)・中国古代青銅器(～12/26) (1/2～)			
西 新 館	平常展 (絵画・書跡・工芸・考古)(～10/11)	談山神社の名宝(12/11～1/23) 法隆寺救世観音像旧厨子(12/11～1/23)		
東 新 館	正倉院展(10/30～11/15)			厳島神社国宝展(仮)(1/2～2/13)

※ただし、12月27日(月)～1月1日(土・祝)は年末・年始休館日

展示品の 見どころ

楓蘇芳染 螺鈿槽琵琶

正倉院南倉
長97.0 捍撥長40.5 捍撥幅16.5
奈良時代(8世紀)

楓蘇芳染螺鈿槽琵琶は、背面の主な部分に蘇芳染めしたカエデ材を用い、螺鈿や琥珀を嵌め込んで唐花文、飛鳥文などを表した豪華な品で、正倉院宝庫の南倉に伝来しました。

螺鈿には線彫りが施され、また背面の唐花文の花心には、金箔・緑青・丹で伏彩色した玳瑁が嵌め込まれており、すみずみまで大



捍撥部分

変さびやかな装飾が施されています。槽の遠山の端に「東大寺」の刻銘があり、本琵琶が東大寺ゆかりの品であることがわかります。

琵琶の撥の当たる捍撥と呼ばれる部分には、白象に乗った胡人や唐子が音楽を奏でる「騎象胡楽図」と呼ばれる絵が描かれています。山岳を背景に夕陽のなかを進む一行は、小画面ながら表情の描き分けがなされ、また装身具や奏楽の運指に至るまで精緻に描かれており、その丁寧な描写には驚かされます。一方、背景に目を向けると、山水表現には遠近法が用いられ、河流に沿って奥まってゆく溪谷は、画面には描かれていない西の彼方を

想像させます。また夕陽の彼方から水辺に降り立つ鳥の群れも近くになるほど大きく描かれ、飛鳥とともに夕暮れの赤い光が迫ってくるような印象を憶えます。捍撥という狭小な画面に、前景の岩壁から中景の溪谷を経て遠山に至る広大な景観を描く様子は、まさに「咫尺千里」「咫尺万里」というべきもので、当時の山水画の到達した水準の高さを物語っています。

かつてはその完成した絵画様式から中国・唐で制作された可能性が指摘されましたが、近年使用された絵の具の特徴から日本で描かれた可能性が提示されています。また、正倉院宝庫の漆芸品にみられる螺鈿には、一般に夜光貝が用いられていますが、本琵琶は唯一アワビが用いられており、このことから本琵琶が日本で制作されたことがうかがわれます。

その一方で、長梨形の胴と曲がった頸をもつ四絃四柱の琵琶というかたちは、ペルシャに起源をもつとされ、「象」という捍撥絵のモチーフも加わって、遙かシルクロードの彼方を想い起こさせます。

本琵琶では、楽器の中に奏楽図を描くという機知に富んだ構成がみられますが、こうした工夫は今回出陳の仮面竹笙の壺部分に、笙を吹く人物が銀平脱で表されているように、正倉院の楽器類にまみられるものであり、いにしえの人々の洒落た感覚を思わずにはられません。

今回正倉院展にて12年ぶりの出陳となるこの名宝を、是非間近で御堪能下さい。(当館研究員 清水 健)



開館予定(10月~12月)

■開館時間 9時30分~17時(11月12日までの毎週金曜日は19時まで)
ただし、正倉院展会期中は9時~18時(金曜日は19時まで)
※いずれも入館は閉館の30分前まで

■休館日 月曜日(正倉院展会期中は無休)
10月11日(月・祝)は開館、10月12日(火)は休館
12月27日(月)~1月1日(土)は年末・年始休館日

■観覧料金 正倉院展

	大人	大学・高校生	中学・小学生
一般	1,000円	700円	400円
団体・前売	900円	600円	300円

平常展・特別陳列

	大人	大学・高校生
一般	420円	130円
団体	210円	70円

*団体は責任者が引率する20名以上。



(交通案内) 近鉄奈良駅から徒歩15分、またはJR奈良駅・近鉄奈良駅からバスで「氷室神社・国立博物館」下車すぐ

『奈良国立博物館だより』は、1・4・7・10月に発行します。郵送をご希望の方は、何月号かを明記し、返信用封筒(90円切手貼付、宛名明記)を同封して、当館の情報サービス室にお申し込みください。



奈良国立博物館
Nara National Museum